

10月6日、仙台市議会第3回定例会が閉会し、オミクロン株に対応したワクチン接種の対応等を盛り込んだ費用や、県が公表した最大級の津波浸水想定を受けたハザードマップの作成等を計上した104億9800万円を増額する一般会計補正予算案など34議案に加え、主要7か国の科学技術分野を担当する閣僚会合が来年、仙台市で開催するため、それに要する追加経費や非課税世帯への追加給付の追加議案を可決しました。今回、一般質問・決算審査特別委員会において、新たな津波浸水想定に対する避難行動の説明会が高砂地区各地で行われておりますが、新たな課題等の認識について伺ってまいりました。

第3回定例会の主な質疑項目

(一般質問)

- PICK UP** ・ 仙台港周辺、出花地区を例とした新たな津波浸水想定に対する避難行動について。
- PICK UP** ・ 津波浸水想定拡大が避難の原点に立ち戻る機会。市長の考えを伺う。
- PICK UP** ・ アウターライズ地震の認識について伺う。
- PICK UP** ・ 大きな公園だけではなく身近な公園にも魅力的な遊具の設置を求める。  
・ 県警における交通安全対策についての本市の認識を伺う。
- PICK UP** ・ 水害常襲地域の排水路の管理徹底、抜本的な対策の前倒しを求める。等

一般質問  
質疑映像



(決算等審査特別委員会／経済局)

- PICK UP** ・ 七北田川における中野堰廃止に伴う農業従事者への対応について。
- PICK UP** ・ 中野堰廃止に伴う農業用水路の管理徹底と下水道への移管について。
- PICK UP** ・ 田子排水機場に稼働がわかる回転灯設置と非常電源設備設置を求める。  
・ 新たな津波想定浸水域にある経済局所管の水門について。等

経済局  
質疑映像



(決算等審査特別委員会／建設局)

- PICK UP** ・ 交通安全対策について本市独自の対応を期待する。
- PICK UP** ・ 抜け道を必要以上にスピードを出す車両への対応について。
- PICK UP** ・ 七北田川の平行に流れる和田新田堀の管理徹底を求める。  
・ 新たな津波想定浸水域にある建設局所管の水門について。等

建設局  
質疑映像



**Look** 大きな公園だけではなく身近な公園にも魅力的な遊具の設置を求める

(質問) 特徴のある遊具を別々に設置し、公園ごとに楽しみがつけられるよう、身近な公園に求める。遊具の計画的な更新についての考え方について伺います。

(建設局長答弁) 今後、計画に基づき順次更新してまいります。遊具の設置にあたりましては、周辺公園の遊具の種類や子育て世代のニーズを踏まえ選定してまいります。

秋保「アグリエわんぱーく」の調査を質疑に反映

秋保にある「アグリエわんぱーく」は県内初の民営が整備するインクルーシブな公園として親子連れでにぎわう公園でございます。ここで事業者の協力を頂きアンケート調査をした結果、公園に求める施設について圧倒的に多かった回答は子供向け遊具でございます。そもそも仙台は子どもを遊ばせる場所が少ないといわれております。



(あみだの山)



(補助付きブランコ)



(ターザンロープ)

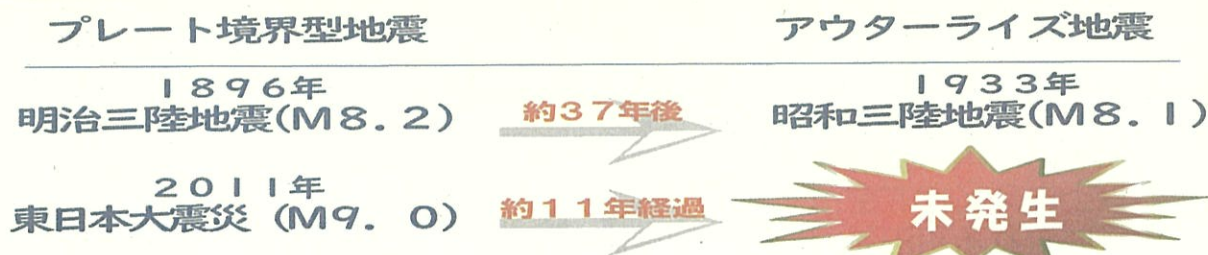


(質問) この地区は大型マンションが現在建築中です。このようなマンションへ避難ができるような体制の構築が必要。浸水想定エリアに立地するマンションやビルについては、避難の受け入れを義務づけることも必要だと感じる。ご見解を伺う。

(危機管理局長) 新たに浸水範囲となる区域におきまして、更なる津波避難場所を確保するためには、民間施設等の活用が必要と考えてございます。緊急時に滞りなく避難できますよう、施設を管理する事業者等にその必要性等を丁寧に説明し、ご理解を頂きながら、避難場所の確保に努めてまいりたいと考えております。このうちマンションにつきましては、避難場所とするには整理が必要な事項が多いものと考えておりますが、ご協力が得られるよう、より丁寧な説明に努めてまいりたいと存じます。

## Look アウターライズ地震についての本市の認識について

(質問) 次に起こる巨大地震に関して懸念されている一つに、震災と「対」になる地震の発生がございました。1896年の明治三陸地震の約37年後に対となる昭和三陸地震が発生。東北に最大28・7メートルの津波が襲来しております。千島海溝でも、2006年のM7・9の地震から約2か月後に対となるM8・2の地震が起きております。発生間隔はまちまちですが、いずれのケースも発生の仕組みが同じで、対になる地震と考えられており、東日本大震災の対になる地震は11年経過した今でも発生しておらず、その発生が心配されております。このアウターライズ地震についての本市の認識を伺います。



宮城県 HP  
浸水図



(危機管理局長答弁) 東日本大震災のように海溝付近で大地震が発生した場合、さらに沖合でも、近い規模の地震が発生しやすくなると言われており、東日本大震災に対応したアウターライズ地震発生の可能性が、震災直後から専門家に指摘されているところでございます。今般の宮城県の津波浸水想定も踏まえまして、引き続き津波からの避難対策の更なる見直しを着実にすすめてまいりますとともに、アウターライズ地震や遠地地震など、その地域での揺れが大きくなっても大きな津波が発生するケースがあることにつきましても、市民の皆様にご啓発を図ってまいりたいと存じます。

## Look 津波浸水想定拡大が避難の原点に立ち戻る機会、市長のお考えを伺う

(市長答弁) 本市では東日本大震災の記憶や教訓を継承させるために、様々な取り組みを行ってまいりましたが、震災から11年半が経過を致しまして、その風化も懸念されております。宮城県から示されました津波浸水想定では、震災の浸水範囲を超える地域も多くございます。対象となる地域の皆様方には、想定の内容や、津波に対する避難行動の基本は「逃げる」ということだと丁寧に説明することにより、この機会を、改めて原点に帰り、防災の意識を高める契機にできるよう努めてまいりたいと存じます。

## Look 新たな津波浸水想定に伴う避難行動について（仙台港周辺・出花地区を例に）

<冒頭>現在、この説明会が複数回に分けて開催されており私自身も参加させて頂いておりますが、釈然としない思いで説明会を後にする方が多い印象をうけます。一方で当局側としても、県が公表した以上、安全確保策の検討途上中でも説明会を開催せざるを得ない状況は理解できます。今後、今回の地域住民の意見、各地域の住宅、交通、周辺の施設状況を踏まえた、個別最適な避難行動ができるように対応して頂きたいと思っております。

（質問）この地域（仙台港周辺）で大津波警報が鳴ったとたんに、車の乗り捨てが発生するなど交通機能が完全に麻痺することが心配。仙台港周辺の道路状況をどう想定しているのかお示してください。また、運転中の車について対応はどのようなのか。

（危機管理局長答弁）津波警報等が発表された際に運転中の方につきましては、そのまま自動車により避難頂くことを想定しておりますけれども、仙台港の周辺は道路網も複雑であり、多くの自動車が一斉に移動することは難しい場合もあるものと考えております。道路状況や津波の情報等から自動車での避難が困難だと判断される際には、周辺の交通を妨げない場所に車を止め、徒歩により最寄りの津波避難施設や指定避難所等へ避難するなどの対応をご判断いただく必要があると考えております。

（質問）この地域と指定避難所の中野栄小学校の間にはJR仙石線がある。車両の緊急停止に伴い、踏切がしまり続けるならば、それこそ大混乱。JR東日本との緊急時の対応について伺う。



（JR仙石線宿在家踏切）

（危機管理局長答弁）JRと本市との間では、これまでも踏切の長時間にわたる通行遮断時の連絡体制等について協議を行ってきたという経緯がございます。この度の新たな浸水想定に伴い、高砂地区にある踏切のうち、数カ所が浸水区域に含まれることになったこと、また、踏切の通行遮断は、地震やそれに伴う停電によっても起こりえることなどを踏まえまして、津波からの避難における影響やその対策につきましても、JRと協議を始めているところでございます。

（質問）安全でわかりやすい避難先というと、産業道路の上を走る仙台東部道路がございますが、この周辺からその道路に避難できる避難階段が存在しません。東部道路自体に定員オーバーはございませんので避難先として協力を頂きたい。避難階段の新規設置と、近隣のインターチェンジの開放についてNEXCO東日本との協議について伺う。

（危機管理局長答弁）東日本対震災での経験や教訓を踏まえ、仙台東部道路の盛土部分に上がるための避難階段の整備がNEXCO東日本により進められました。こうした避難階段が若林区に5カ所ございますが、宮城野区内には現在ございません。仙台東部道路の活用は、この度の想定で新たに浸水範囲に含まれた地域におけます避難場所確保のための有効な手段の一つであると認識しておりますので、インターチェンジ部分の活用等につきましてもNEXCO東日本と改めて協議を始めたところでございます。



（東部道路に避難階段を求めると）



（緊急時のIC開放を求めると）

## Look 水害常襲地域の排水路管理の徹底と抜本的な対策の前倒しを求める

(質問) 現在水害常襲地域は、抜本的な対策を実施中、若しくは計画中ということですが、遅いという声があがっている。全市的に抜本的な対策の前倒しを求める。

(建設局長答弁) 本市では、令和元年東日本台風での甚大な被害を踏まえまして、庁内横断的な組織である雨水対策委員会におきまして、整備計画の前倒しも含めて浸水対策の強化を検討してまいりました。この中で白鳥・高砂地区や日の出町・扇町地区など、優先的に整備を進める地区を選定し、予算の増加や執行体制の見直しを図ってきた。対策には長期間を要しますことから、地域や市民の皆様の被害軽減対策なども呼び掛けている。こうしたハードソフト両面にわたる対策につきまして、地域の皆様に丁寧に説明するとともに、今後とも、国の制度を活用するなど事業費の確保に努めながら、事業を確実に推進し、早期の効果発現をはかってまいります。

## Look 七北田川の中野堰廃止に伴う下流東側の農業用水路の扱いについて

(質問) 堰の廃止に伴い農業用機能がなくなる水路はどの程度あるのか。

(経済局答弁) 全長約12.7kmに及ぶ。

(質問) 冠水対策として整備するためにも下水道に移管を進めるべき。移管の条件は。

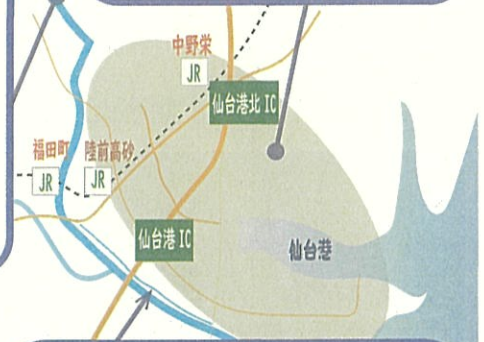
(経済局答弁) 水路構造物の破損や土砂の堆積など維持管理上問題ない状態であることが移管するには必要。早期に移管できるよう協議・調整してまいります。

(七北田川中野堰)



昭和39年3月に完成した可動堰。令和2年4月に堰本体にあるシリンダーが故障したため、農家に営農休止補償をするかわりに堰の廃止を決定した。

中野堰の廃止により七北田川下流東側の農業用として機能がなくなる水路は全長約12.7kmに及ぶ。



## Look 七北田川と平行に流れる和田新田堀(高砂~白鳥)の管理徹底を求める

(質問) 以前から、和田新田堀について取り上げ、整備を求めてきた。7月15日、16日の大雨、この地区の雨量(42mm/h)で一部が冠水したのは和田新田堀が問題だという話がある。除草、浚渫をしたほうが通水機能は確保されるがご見解は。

(建設局答弁) 和田新田堀の断面は、計画上必要な断面よりも大きいものとなっております。当該地区の浸水要因は下流の雨水排水施設である西原雨水ポンプ場等の能力不足と考えており、現在令和9年度の工事完了を目標にポンプの増設工事を進めているところでございます。

(和田新田堀/高砂中学校前)



(8月21日除草前) (9月21日除草後)

## Look 田子排水機場に回転灯の設置と非常用電源設備を求める

(経済局答弁) ポンプ稼働時に点灯する回転灯につきましては、今年度、地域の皆様から視認しやすい、排水機場東側に隣接するゲートの上部に設置する。非常用電源は、稼働に必要な発電機や燃料貯蔵庫を敷地内でどのように配置できるか等、専門的な検討を要する事項があることから、業務委託により、整備に向けた検討を進めてまいりたいと考える。

(田子排水機場)



回転灯の設置が決定  
非常電源が本格的に検討